

「ごあいさつ」

日本アイ・ビー・エム株式会社
最高顧問 北城 恪太郎 氏

おはようございます。

日本 IBM の北城でございます。

本日は、アクセシビリティ・フォーラム 2008 に多数ご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

また、お忙しい中、ご講演いただく講師の方々にも心から御礼申し上げます。

今日では、情報通信技術が大変進歩してきており、特に、インターネットの発展が、私たちにたくさんの情報を提供してくれるとともに、私たちの生活も豊かにしてくれています。

一方で、昨今、インターネットの中に、映像あるいは動画が含まれるようになるにしたがい、障がいのある方がこうした情報を的確に把握できなくなって、デジタル・デバイドといわれる、情報に接することができる人とできない人の格差が生じてくるという問題が出てきています。

自宅に居ながらにして、多くの情報を手に入れることができるということは、大変な進歩ですが、こうした技術を多くの人に使っていただくためには、もう少し配慮や、あるいはさらなる技術の進歩が必要です。

この観点から、弊社では、視覚障がいのある方に、映像情報に説明を加えた上でインターネットで提供することから始め、さらに高齢者の方、聴覚障がいのある方にも情報を提供できるように配慮する試みを続けてきています。そして、最近では、学習障がいにも焦点をあてて、情報技術の開発、あるいは製品開発に取り組むとともに、広く世の中に啓発するための活動にも、努力してまいりました。

弊社では、10 年ほど前から、アクセシビリティ・フォーラムを開催してきており、中央省庁や地方自治体などの行政の方、教育研究に携わっておられる方、さらには、企業や NPO の方など、多くの方々と共に、どのようなことに我々は配慮しなければならないか、どのような技術の開発が必要なのか、あるいは、社会の仕組みや行政の仕組み、さらには標準化に向けて何が必要か、といったことなどを検討し、開発に努力して参りました。

特に、将来を考えると、教育の面で、多くの子ども、あるいは大人を含めて、いろいろなハンディキャップがある方の期待に応えるように、利用可能な多くの教育機会を提供するための活動が必要であると考えておりますので、今回のフォーラムでは、特に教育に焦点を当てて、皆さんと共に、アクセシビリティの問題を考えていきたいと思えます。

障がいのある人もそうでない人も、広く社会に参加し、皆が同じように社会の進歩を創り出し、共に生活を豊かにしていく。そのような社会が実現できるよう、技術の開発だけではなく、社会的な活動についても、ぜひ皆さんと一緒に努力をしていきたいと思えます。

今日は、皆さんと一緒に、教育に焦点を当てたアクセシビリティ・フォーラムを開催できることを大変嬉しく思っています。

今日一日が有意義な日になることを願い、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。